

病気を知るミニブック

mitsuba

# みつば



子どもの感染症  
を知ろう。【前編】

MINI BOOK  
SERIES

11

独立行政法人 国立病院機構  
大阪医療センター

# 子どもの感染症を知ろう。【前編】

知ることが、家族を守る第一歩

## 「子どもの感染症」って、どんな病気？

赤ちゃんは母体から免疫を授かって生まれますが、その免疫は成長とともに弱まり、感染症にかかりやすくなります。

**感染症とは、ウイルスや細菌などが体内に侵入・増殖し、さまざまな症状を引き起こす病気です。**

子どもの感染症は、普通感冒（いわゆる風邪、のどの痛みや鼻水、咳、発熱を起こすウイルス性の上気道炎）が多いですが、それ以外の特徴のある子どもに多い感染症について取り上げます。

### ■ インフルエンザ

冬～春に流行します。1～2日の潜伏期間後、突然38度以上の高熱が出現、ぐったりして、頭痛や筋肉痛、のどの痛みが出現し、やや遅れて、咳や鼻水などの症状もみられます。時に中耳炎や肺炎といった合併症を生じます。治療は、安静と十分な水分補給、解熱剤などの対症療法が中心で、早期には抗ウイルス薬が有効です。隔離期間は、発症後5日、かつ解熱後2日（幼児は3日）です。稀に、急に怖がる、走り出す、幻覚を見るなどの異常行動が出現することがあります。発熱して2日間はお子さんを一人にしないでください。



### ■ 細気管支炎・RSウイルス・ヒトメタニューモウイルス

発熱と咳、呼吸がゼーゼーとする喘鳴をきたしやすいウイルスです。RSウイルスの流行期は、以前は冬でしたが近年は夏です。感染初期に鼻水と微熱が出現し、後から咳や喘鳴が続きます。6か月以下の乳児では、重症化して、酸素投与などのために入院が必要になることもあります。ヒトメタニューモウイルスも症状は似ていますが、流行期は春先から初夏です。重症化しやすいのは1～2歳の幼児です。どちらも発熱が5日程度続くことがあり、5日目前後まで症状が悪化する可能性があります。1歳未満の子どもは早めに小児科を受診しましょう。RSウイルス感染症は、妊娠中に接種するワクチンが可能になり、今後、重症化例が減ることが期待されています。



### ■ マイコプラズマ気管支炎・肺炎

マイコプラズマという細菌によっておこる気管支炎や肺炎で、1年を通じて発症します。2～3週間の潜伏期の後、頭痛や倦怠感、発熱、乾いた咳で発症し、後に痰が絡んだ咳に変わり、咳は3～4週間続くこともあります。肺炎になるのは10%ほどです。治療には抗生剤を使います。



## ■ クループ

原因となるウイルスは様々で、秋から冬に比較的多くなります。のどの奥の声を出す部分の周辺が腫れて、オットセイが吠えるような咳が出たり、声がかすれて出なくなったりします。腫れがひどくなると、息を吸うことが苦しくなります。浴室で湯気を吸ったり加湿器を使ったりすると改善することがありますが、しんどい時は、腫れを取るための薬の吸入やステロイドの内服が有効なので受診してください。



## ■ 百日咳

百日咳菌により起こり、1年を通じて発症します。ワクチンの普及により、典型的な重症の患者は減っています。最初は鼻汁や軽い咳から始まりますが、1～2週目に連続して止まらない発作性の咳と、咳の後で息を吸う時にヒューツという音が出ます。咳のために吐くこともあり、乳児では息ができなくなることもあります。熱は通常出ません。抗生剤には殺菌効果はありますが、発作性の咳は菌が産生した毒素により起こるので、自然に収まるのを待つしかありません。



## ■ 急性胃腸炎：ノロウイルス・ロタウイルス・アデノウイルス

冬～春に流行する感染性胃腸炎の主な原因は、ロタウイルスとノロウイルスです。どちらも嘔吐や下痢、腹痛を起こし、発熱もありえます。ロタウイルスは乳幼児に多く、時に重症化しますが、ワクチンの普及後、重症化して入院する子どもが激減しました。ノロウイルスは幅広い年齢層で見られます。アデノウイルスによる腸炎は1年を通じて発生し、下痢が長引く傾向があります。すべて便の検査で診断できます。通常、吐くのは最初の1～2日です。吐いている時は経口補水液を5～10mLを5～10分おきに飲ませます。3時間以上吐かなければ自由に飲ませます。食事再開時は乳製品や油ものは避けます。半日以上排尿がない、反応性が弱いなどがあれば、病院を受診してください。



## Doctor's Voice

なばため  
小児科 科長 青天目 信

今回は呼吸器症状と消化器症状が目立つ感染症を取り上げました。今回紹介した以外にも、感染症はたくさんあるので、きちんと医師の診察を受けましょう。感染症を防ぐためには、帰宅後・食事前の手洗いを習慣づけましょう。ワクチンで予防できる病気は、ワクチンをスケジュールに沿って打つことがとても大切です。正しく知って感染予防を心がけましょう。



## 特別室のご案内

安心して療養いただける、落ち着いた環境をご用意しています

当院では、ご希望に応じて特別室（個室）をご利用いただけます。周囲を気にせず静かに過ごしたい方や、ご家族との時間を大切にしたい方など、一人ひとりの療養スタイルに合わせてお選びいただけます。

特別室は病状や空室状況に応じてご案内しています。ご希望の際は、入院時または病棟スタッフまでお気軽にご相談ください。

※特別室は**特別室使用料金（保険適用外）**が必要です。

料金・設備など詳しくは病院ホームページをご覧ください。病棟スタッフへお尋ねください。



「特別室 A」



「特別室 F」

## 大阪医療センターへのアクセス

### ▶ 公共交通機関をご利用の場合

- Osaka Metro(大阪メトロ)  
中央線・谷町線「谷町四丁目」駅11号出口すぐ
- 大阪シティバス 62系統  
大阪駅 ⇄ 住吉車庫前「国立病院大阪医療センター」下車

### ▶ お車でお越しの場合

- 阪神高速(東大阪線・東行き)：「法円坂ランプ」出口すぐ 上町筋を右折
- 一般道：上町筋と中央大通りとの交差点南西角



独立行政法人 国立病院機構 **大阪医療センター**  
NATIONAL HOSPITAL ORGANIZATION OSAKA NATIONAL HOSPITAL

住 所

〒540-0006 大阪市中央区法円坂2-1-14

休診日

土曜日・日曜日・祝祭日 年末年始(12月29日～1月3日)

代表電話番号

**06-6942-1331**

再診予約番号

**06-6946-3519** (受付：平日午後1時～4時)

